

防災塾

No.15

防災を「忘災」にしない為に

前回に続き、災害に関する忘備録の引出し-4です。今回は最終回です。

■人が死なない防災、そのための避難対策

- これから求められる防災は、「人が死なない防災」である。帰宅困難者問題や避難生活・避難所運営に関わる問題、復旧・復興に関わる問題などは、いわば「生き残った人のため防災」である。無論、こうした問題解決も重要であることはいうまでもないが、この問題は災害から人が生き延びたからこそ生まれるものである。やはり第一義として求められることは「人を災害で死なせないこと」であり、そのための防災であると考え。最善を尽くした結果として命が守られる。避難所整備をはじめとする避難計画の検討と合わせて、一人ひとりが与えられた想定にとらわれることなく、その状況下で最善を尽くすこと、すなわち自らの命を守ることに主体的な姿勢を持って避難すること、そして、そのような姿勢を醸成する防災教育の取り組みを実施していくことが、これから求められる「災害から命を守るための防災」として重要なことである。

■震災が起きたら「マンションにとどまる」選択も、問題はトイレ（朝日新聞社とYahoo!ニュースによる連携企画記事からの抜粋）

- 限りある避難所、負担を減らすための「在宅避難」「報道などのイメージが強いせいか、『災害があったら、避難所』という考え方は根強い。又、避難生活をする場所を尋ねると今でも「避難所」と答えるマンションの住人は多いそうです。実際には、近隣への避難、マンションの敷地内にとどまる「軒先避難」、車での避難など様々な形があります。その中でも自宅は、「避難所に比べて生活の不便さやストレスを減らせる」、被災後も住み続ける際、大切なのは「現在の生活パターンを維持しつづけること」
- 見落とされやすい「トイレ」問題自宅での避難生活を考える上で大事なものはまず、地震発生時に身の安全を守ることです。東京消防庁の調査によると、2016年の熊本地震でけがをした原因のうち、家具類の転倒などによるものは、一般住宅で29.2%、高層マンションで40.0%でした。家具の固定や配置を工夫することは、命を守るだけでなく、マンションで生活をするためにも必要な備えになります。そして、家庭での備蓄です。東京防災では「ガス・電気・水道の代替」「食料品や日用品の備え」「下水道の使用法」の点から準備を薦めています。が、「マンションの場合、見落とされやすいのが『トイレ』問題」と指摘します。東日本大震災では断水のほか、下水管の損傷により上階の住人のトイレ使用で汚水が逆流し、下階のトイレなどからあふれる被害が相次ぎました。「排水管の損傷がないか確認できるまでは、生活排水やトイレの水は流さない方がいい」。代わりに簡易トイレや便袋をストックしておくことが必要になります。

■在宅避難には、余震への備えが必要

(2016年10月 朝日新聞からの抜粋)

- 大きな地震に余震はつきものだ。規模は1回り小さいことが多く、時間とともに減っていく。ただ、熊本地震では4月14日の「前震」から28時間後に、より規模の大きな「本震」が起き、不安を増幅させた。通常の余震でも、震源が近ければ最初の地震より揺れが大きくなることもある。「余震」という言葉を使うと、より大きな地震は起きない印象を与えられない。そんな議論の末、気象庁は8月、地震後の注意の呼びかけ方を改めた。続けて大きな地震が起これるのは、最初の地震から1週間程度の間の場合が多い。時に2～3日程度の間に目立つという。こうした事例をもとに、「余震」を使わず同程度の地震への注意を呼びかけることにした。周辺の活断層や過去の続発例にも触れる。今月21日の鳥取県中部の地震でも、この方式で「1週間程度、震度6弱程度の地震に注意」と呼びかけた。

地震で散乱した物が、余震で再び飛散し、人の死・ケガに繋がらないように、物をまとめて別室に片付けるなどして、家族の安全な居場所を確保すること

■避難所にて

- 命が助かったとしたら、欲望が出る。普段の生活を取り戻して来ると、弱者への配慮を忘れて来る。「うるさい」、「寝られない」などの苦情を言い出す。中には酒・ビールを飲み出す者も出てくる。

■子供を守るということは

- 阪神・淡路大震災で亡くなった人の中に、小学生が16人居ました。その子たちは、地震についてどれだけ知っていたのでしょうか？ 親は、子供達に地震の恐ろしさを教えたことがあったのでしょうか？ 子供が理解出来ていないとしたら親は安全対策をしてやらなくてはならない。それが親の務めです。
- 実際に和歌山県であった話 3人の幼い姉妹は、親が外出する時、「誰が来ても絶対に家を出てはいけない」と言われ、近所の人が津波が来ると知らせても、親の言いつけを守り、津波にさらわれた。

当該地では、相武台中学校避難所に全住民が避難できないので、「在宅避難」で考えています。



地震に無関心では、自分や家族を守れません。ぜひ、今後開催する「防災塾」へ足を運んでください。

「防災塾」の開催日は階段下掲示板へ貼り出します。(コロナで活動休止中)

「防災塾」塾長・防災士 竹内 一三 ☎046-254-7137 後援：相武台グリーンパーク災害対策合同会議